

# V 教育研究計画

## 1. 学校研究

### (1) 研究主題

自分の考えを表現し、互いに伝え合い、学びを深める算数授業

### (2) 主題設定の理由

次期学習指導要領では、育成すべき資質・能力について①何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）、②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）の三つの要素を挙げている。

昨年度は、「児童の思考力・判断力・表現力を高める授業研究～算数科の授業を通して～」を主題に掲げ、研究に取り組んだ。その結果、児童は、課題や問題に対して、自分の考えをもち、自分なりにノートに表現するという力が身につけてきている。また、教師は、目指す児童の姿を明確にしたことで、日頃の授業においても、主体的・対話的・深い学びを意識した実践を進めることができた。一方で、事象を数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えや事柄の本質について話し合い、よりよい考えに高めたりする授業づくりにはまだ、課題が見られる。また、全学年共通したノート指導により、課題からまとめ、振り返りまでの1時間の学びの残るノート作りを進めてきたが、学びを実感する振り返りにはまだなっていない。今後、児童の変容を見取ることができるような評価を行い、指導の改善につなげていく研究を進めていかなければならない。

そこで今年度も算数科の授業を通し、児童が既習の知識・技能の中から何をどのように使うか考え、判断し、表現できる力（活用する力）を育てていきたい。そして、考えを的確に伝え合う過程における、児童の主体的・対話的な深い学びを実現させていきたい。

#### 【算数科を通して目指す児童像】

自分の考えをもち、仲間とともに学び、よりよい考えを求めている

(自分の考えをもつ)

考えを図や式、言葉を用いて的確に表現している (伝え合い)

自分の変容や学びを振り返っている (学びの自覚)

### (3) 研究の重点

#### 重点①自分の考えを明確にもつための手立ての工夫

- ・課題を明確につかむための問題提示の工夫
- ・課題設定の工夫
- ・自分の考えをもつための支援の工夫

#### 重点②考えたことを全体に広げる学習の場の工夫

- ・考えたことを表現するためのノート指導（絵・図・数式・文）
- ・考えをつなげる話し合いになるための発問・問い返し
- ・学習形態の工夫

#### 重点③学びの自覚をはかるための工夫

- ・適用題の吟味
- ・振り返りの充実